

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 4 年 6 月 12 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	研究会	行事番号	220000497
開催日	令和 4 年 5 月 14 日（土）～令和 4 年 5 月 27 日（金）		
時 間	開 始	—	終 了
場 所	オンデマンド配信		
テーマ	骨髄異形成症候群（MDS）について～前編（総論と形態を中心に）～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	無し		
講 師	1.MDS 総論 愛知医科大学病院 鈴木 崇峰 2.MDS の形態的特徴 小牧市民病院 小川 有里子		
内 容	講演 1. の MDS 総論では、WHO 分類第 4 版改訂版（2017）で改訂された MDS の主な変更点を踏まえ、診断基準の要点や病型分類について大変分かりやすく講演していただいた。教科書的なことだけではなく、実際にルーチンで遭遇した場合に臨床から求められる報告の仕方や自施設での検査方法の工夫等も盛り込まれており、多くの施設で大変参考になる内容であった。 講演 2. では MDS でみられる特徴的な形態的異形成所見について多くの細胞写真を提示しながらの解説をしていただいた。参加者の中には初心者の方も何人かみえたが、経験年数が浅い方も興味を持って聴講できた、今回形態異常所見を学べたため次回の続編が楽しみだという感想をいただいた。 両講演ともに参加者からは大変分かりやすかった、興味が持てたといった感想が多かった。 今回の研究会では 2 週間のオンデマンド配信を行ったことで、好きな時に視聴が出来て良かった、e-learning を解くために何度も動画を見て答えを出し、大変勉強になったと総じて好評であり、次回研究会の症例提示編につながる内容であったと思われる。		
参加者	総数：210 名（会員 141 名、県外会員 69 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）（レポート提出：197 名）		
共催、後援など	なし		

2022.6.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 4 年 7 月 16 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	研究会	行事番号	220001218
開催日	令和 4 年 6 月 18 日（土）～令和 4 年 7 月 1 日（金）		
時 間	開 始	—	終 了
場 所	オンデマンド配信		
テーマ	骨髄異形成症候群（MDS）について～後編（症例編）～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	無し		
講 師	1.症例 1（MDS-MLD） 国立病院機構名古屋医療センター 後藤 勇也 2.症例 2（MDS-RS-MLD） 藤田医科大学病院 水谷 有希 3.症例 3（MDS-ED2） 名古屋大学附属病院 亀山 なつみ		
内 容	MDS の病型の異なる 3 症例を提示した。事前参加登録者に、本動画配信 1 週間前より事前に症例提示スライドを確認していただき、本配信での解説スライドの視聴により答え合わせや不明点の確認として活用してもらう開催方式とし、参加者からはとても好評であった。また、3 症例ともに写真だけでなく鏡検動画とスライドに取り入れることにより、標本を顕微鏡で観察しているかのような提示形式であったことについても高評価であり、今後別の症例についても同様な提示方法の要望が多数あった。 3 症例ともに実際に診断が行われる過程での細胞分類から始まり、5 月に配信した MDS 総論についての復習も交えながら異形成所見の取りかたについて多くの写真を提示しながら解説を行った。また、日本検査血液学会で推奨されている骨髄検査所見記録用紙を用いてレポートの作製にも触れ、最終的にカウント値や異形成所見などから IPSS の予後因子の評価とリスク分類、考える MDS の病型分類を導き出す流れに統一して提示を行った。 参加者からは分類の仕方を具体的に学べて勉強になった、動画で実際に顕微鏡を見ているようでわかりやすかった、MDS について深く理解できたというような有意義であったことが伺える感想を多くいただいた。		
参加者	総数：181 名（会員 121 名、県外会員 59 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）（レポート提出：173 名）		
共催、後援など	なし		

2022.7.16

愛臨技學術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 4 年 8 月 26 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	基礎講座	行事番号	220003300	
開催日	令和 4 年 8 月 7 日（日）			
時 間	開 始	9 : 00	終 了	16 : 00
場 所	名古屋大学医学部基礎棟			
テーマ	末梢血液像の見方			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	国立病院機構名古屋医療センター 棚橋 真規夫			
講 師	1. 末梢血標本の見方 豊田厚生病院 蒲澤 康晃 2. 血球形態の標準化について 株式会社ビー・エム・エル 坂場 幸治 3. 末梢血液像判読（顕微鏡実習） 血液検査研究班班員			
内 容	午前の講演 1 では末梢血塗抹標本の見方について、白血球 5 分画、赤血球、血小板の正常像から異常所見を含め、多くの写真を提示しながらの解説であった。 講演 2 では講師の榎本先生の諸事情により現地登壇が不可能となり、録画配信も難しかったことから、講師を変更しての動画の聴講を行った。動画講師の坂場先生は榎本先生と同じく血球形態の標準化活動に従事されており、今回聴講した動画も全国の啓蒙のために活用されているものを使用させていただいた。血球の分化段階の標準化はとても重要なことであり、定義を明確にされたこと、細胞の分化連続写真のポスターを見本として分類をしていくことで全国的な標準化に繋がる内容であった。しかし、今回の基礎講座参加者は血液像判読を始めたばかりの方が多く、難しかったという感想が見受けられた。 午後の顕微鏡実習では 5 グループに分かれて実習を行った。5 症例+その他のよく見る細胞の標本を用意したが、参加者数が例年の半数ほどであったため、班員 1 人につき 2-3 名ほどの参加者の指導ができた。これから判読を始める参加者も多かったこともあり、より丁寧な解説につながったことで参加者からの満足度が高かった。			
参加者	総数：37 名（会員 37 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 4 年 8 月 26 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	基礎講座	行事番号	220003311	
開催日	令和 4 年 8 月 20 日（土）～令和 4 年 9 月 2 日（金）			
時 間	開 始	—	終 了	—
場 所	オンデマンド配信			
テーマ	血球形態標準化について			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	無し			
講 師	血球形態の標準化について～骨髄顆粒球系・赤芽球系細胞を中心に～ 愛知医科大学病院 榎本 めぐみ			
内 容	日臨技、日本検査血液学会の血球形態標準化小委員会及びワーキンググループが中心となって作成された、細胞の分化連続写真のポスターをもとに標準化についての講演をしていただいた。 典型的な細胞の一致率は高いが、各分化段階の細胞の移行期においてはワーキンググループメンバー及び協力者でのバラツキが多かったが、各々の細胞の特徴を強調したポスターを見本にしてじっくりと判定していくことで一致率が向上したという結果を提示していただき、基準に沿った分類により標準化は可能であり、判別が困難な段階の細胞ほど目合わせの重要性を再認識した。 細胞の分化連続写真を見本にせずには自施設での目合わせを行い、他施設との目合わせにつなげていくことが理想と感じた。			
参加者	総数：180 名（会員 94 名、県外会員 86 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：291 名			
共催、後援など	なし			

【総数】 現地開催、ライブ配信：参加者を記載（非会員や学生など内訳を記載）

オンデマンド配信：レポート提出者と講師、実務委員を記載

2022.8.26

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 5 年 3 月 11 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	研究会	行事番号	220017484
開催日	令和 5 年 2 月 18 日（土）～3 月 3 日（金）		
時 間	開 始	—	終 了
場 所	オンデマンド配信		
テーマ	令和 4 年度愛臨技精度管理報告		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司 会	なし		
講 師	講演 1.血球計数部門、凝固線溶項目 JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 藤上 卓馬 講演 2.血液形態部門 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 白木 涼 講演 3.凝固検査用検体の取り扱いについて アンケート調査報告とリーフレットの紹介 刈谷豊田総合病院 宮本 康平		
内 容	令和 4 年度の愛知県臨床検査技師会精度管理調査について、血球計数部門および凝固線溶項目、血液形態部門について解説を行った。 血球計数部門では加工血球を使用し、すべての項目で機種別集計評価を行った結果、CV 値は良好であった。凝固線溶項目（評価外）では、設問形式で検体の取り扱いやクロスミキシング試験や結果解釈についての調査を行い、いずれも良好な結果であった。血液形態部門では、大半の設問で良好な正答率であったが、顆粒球系細胞の成熟段階の設問で回答が割れる傾向であった。うち一問は正答率 63.2%であり、評価対象外とした。現在発行されている日本検査血液学会血球形態標準化 WG の顆粒球系細胞の分化連続画像を参考に、鑑別ポイントについて詳しく解説を行った。 また、Aiccls の活動として、凝固検査についてのアンケート調査結果の報告および、この度発行された凝固検査用検体の取り扱いについてのリーフレットの紹介をした。測定に関しては試薬、機器によってばらつきがあるため結果報告の標準化は難しいが、検体の取り扱いについては統一の必要性を感じる内容であった。		
参加者	総数：119 名（会員 91 名、県外会員 27 名、非会員 0 名、賛助会員 1 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：153 名		
共催、後援など	なし		

2023.3.11